

報 告 書

<イベント概要>

Japan House London が実施する日本の地域発信プログラム「[Spotlight on Local Japan](#)」において、「松本城と松本押絵雛／七夕人形制作」をテーマに、松本の歴史や文化を紹介しました。

なお、本イベントは、宿泊税（令和8年6月1日導入）を活用した事業として実施しました。

【1日目】令和8年7月30日（木）18：30～19：30（登壇：柏澤 由紀一）

松本城の築城背景、歴史、建築的特徴や国宝としての価値について紹介、質疑応答を実施／無料イベント。

【2日目】令和8年7月31日（金）18：30～19：45（登壇：三村 隆彦、三村 修子）

松本押絵雛の歴史と城下町に受け継がれる文化や七夕人形の紹介、松本押絵雛の実演、質疑応答を実施／無料イベント。

【3日目】令和8年8月1日（土）13：00～14：40、16：00～17：40／計2回（登壇：三村 隆彦）

七夕人形の文化的背景を紹介し、七夕人形作りのワークショップを実施／有料イベント（1名20ポンド＝日本円で約4,000円）。

<イベント参加者>

- ・1日目：会場参加98名（予約180名）
- ・2日目：会場参加60名（予約118名）、オンライン参加26名（予約49名）
- ・3日目：1回目22名（16組参加）、2回目27名（25組参加）／計49名 計233名参加

<所感等>

- ・施設内では、複数箇所にイベント告知の案内があり、来場者が情報に触れやすい環境が整えられていた。また、会場の入口横には Japan House London のスタッフ（以下「現地スタッフ」という）による七夕飾りが設置され、来場者が自由に短冊や葉形の飾りを付けられる企画もイベントへの関心喚起につながっていた。
- ・現地スタッフとは日本語で打合せや相談ができ、意思疎通は円滑であった。3日間とも開演前に会場確認、打合せ、リハーサル等を行った。特に1日目は14：30頃から時間をかけて準備を行い、要望や懸念事項を十分に共有した上で本番に臨むことができた。2日目は16：00、3日目は11：00に会場入りし、それぞれ本番に向けた準備を行った。
- ・1日目は、建築関係者の来場も多く、参加者から専門的な質問が複数寄せられた。また、今回ロンドンでイベントを開催した背景として、「松本城の耐震工事が始まる前に訪れてほしい」と伝えたことは、イベントの開催時期や目的について参加者の理解を得やすく、松本城への興味を引く内容となった。
- ・複数日にわたり連続して来場する参加者もあり、1日目の終了後にも登壇者への質問を希望する約10名の列ができた。2日目も実演テーブルの周囲に多くの参加者が集まり、日本の文化や松本押絵雛への関心の高さがうかがえた。
- ・2日目に参加したオーストラリア人親子がその場で3日目のワークショップを予約したほか、帰国時には日本に立ち寄り、ベラミ人形店を訪れたいとの意向を示すなど、イベントを通じて具体的な訪問意向につながる事例も見られた。
- ・3日目のワークショップは、三村氏と前原氏が正面で説明し、他スタッフが参加者を個別に支援する体制で実施した。大きな見本を用いた説明も有効で、幅広い年齢層の参加者が支障なく制作でき、2回とも予定時間内に余裕をもって終了することができた。現地スタッフからも、進行がとてもスムーズであったとの評価を得た。
- ・ワークショップは直前まで予約上限に達しなかったものの、現地スタッフによる SNS での再告知やインフルエンサーの活用により、最終的に2回とも満席となった。参加者は子ども連れの家族、友人同士、カップルなど幅広く、日本語を話せる参加者や日本語に関心のある参加者もあり、日本語での交流も見られた。

- ・ ワークショップの制作後には、松本押絵雛の実物を参加者の席で順に紹介するとともに、七夕人形のポストカードや協会の販促品シールを配布し、松本への関心を深める機会とした。
- ・ 3日間とも遅れて来場する参加者が見受けられたが、1・2日目の講演・実演では、現地スタッフが会場内での誘導や椅子の追加を行い、円滑に対応した。3日目のワークショップでは個別に制作をフォローしたため、進行への大きな影響はなかった。
- ・ ロンドン市内では、地下鉄、バス、小規模店舗を含めカード決済が広く普及しており、今回の滞在中に現金を使用する場面はなかった。また、代金を均等に分け、各自がカードで支払うことができる点も印象的であった。松本を訪れる外国人旅行者の利便性向上には、観光施設や店舗におけるキャッシュレス対応の充実が重要であると感じた。

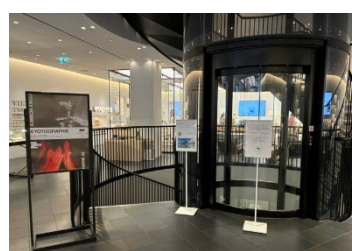
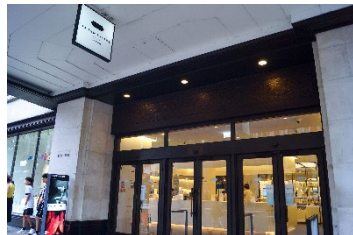
<今後のイベント実施に向けた参考事項>

- ・ イベント開始後の誘導とフォローの役割分担を事前に確認しておく。
- ・ 投影資料は写真や要点を中心に構成し、事前に通訳と話す内容や間合いを確認する。
- ・ 大きな完成見本や工程見本を用意し、説明役と参加者支援役を分けて、工程ごとの時間にも余裕を持たせる。
- ・ 予約状況を共有し、公式 SNS や現地のインフルエンサー等を活用し、開催直前まで周知。
- ・ 複数日のイベントでは、各日の内容を関連付けて紹介し、各回にも誘引する。
- ・ 開催時期に合わせて信州ならではの文化や時事的な話題・内容を盛り込む。

<出張者コメント>

- ・ 遠く離れた異国の地でも、ものづくりに対する情熱は全く同じだと感じることが出来、とても有意義なイベントでした。ワークショップに関しては老若男女、参加者全員が時間内に完成することが出来、現地スタッフとチーム松本の皆様方のご協力のおかげと感謝しております。(三村隆彦)
- ・ 伝統工芸に対して大変興味をお持ちのお客様でしたので、後継者問題や材料供給など深い洞察のある質問が多くとても手ごたえを感じ、励みになるとともに今後のお客様対応にも生かせそうな経験でした。現地スタッフもとても協力的で、参加者全員が作品完成の喜びを分かち合えたことが嬉しかったです。アンケートにご希望がありました通り、さらに時間があれば押絵の体験も効果的であった様に思います。(三村修子)
- ・ 日本の文化を海外の人に直接発信でき、その反応も感じることができる非常に有意義な場でした。また、ロンドンという世界的な文化都市で、松本の魅力を伝えることができ、今後の誘客につながっていくことを期待しています。(清澤)
- ・ 七夕人形のワークショップのお手伝いをさせていただきました。折り紙の要素もあり、参加者は図工のクラスのような雰囲気でした。みなさん、完成品を大事そうに持ち帰っていらっしゃいました。自分で作る「日本文化」はどの年代の方も楽しんでいる様子でした。自身の感想としては、松本の伝統文化の奥深さに改めて興味を持ちました。又、見慣れた松本城や松本の景色を、海外で見るとその素晴らしさに圧倒されました。(前原)
- ・ 講演を聞く参加者の反応に一定の手応えを感じつつプレゼンすることができました。質問も沢山していただき、改めて「松本城」というコンテンツの価値を感じました。(柏澤)
- ・ 初めての海外イベントでしたが、チーム松本と現地スタッフが力を合わせ、盛況のうちに終わることができました。今回のイベントで見聞きし、体験したことが松本への関心を深め、実際の誘客につながることを願うとともに、松本を訪れる方々の体験をより良いものにできるよう、今後の業務にも活かしていきたいと思います。(井手)

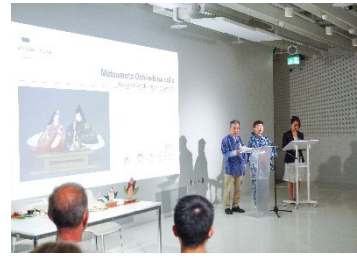
<会場・イベントの様子>



1 日目 (↑現地スタッフ企画の七夕飾り)



2 日目



3日目

